

課題整理総括表

利用者名

【注意】
 阻害要因一疾患そのものが要因となることは少なく、その疾患による症状や管理不十分で生活に影響を及ぼしているものが要因となります。
 利用者の心身の状態だけでなく、生活の環境（物理的、社会的）等も阻害要因となります。
 以上を踏まえて記載してください。

作成日

自立した日常生活の阻害要因 (心身の状態、環境等)		①						
		④						
状況の事実 ※1					援内容等)			
移動	室内移動	自立	見守り	一部介助	全介助	改善	維持	悪化
	屋外移動	自立	見守り	一部介助	全介助	改善	維持	悪化
食事	食事内容	『課題整理総括表・評価表の活用の手引き』（平成26年3月 厚生労働省老健局）を熟読し、「(3)課題整理総括表の記載項目及び記載要領と留意点」に則り記載してください。						
	食事摂取調理							
排泄	排尿・排便	支障なし	支障あり					
	排泄動作	自立	見守り	一部介助	全介助	改善	維持	悪化
口腔	口腔衛生	支障なし	支障あり					
	口腔ケア	自立	見守り	一部介助	全介助	改善	維持	悪化
服薬	自立		見守り	一部介助	全介助			
入浴	自立		見守り	一部介助	全介助			
更衣	自立		見守り	一部介助	全介助			
掃除	自立		見守り	一部介助	全介助			
洗濯	自立		見守り	一部介助	全介助			
整理・物品の管理	自立	見守り	一部介助	全介助	改善	維持	悪化	
金銭管理	自立	見守り	一部介助	全介助	改善	維持	悪化	
買物	自立	見守り	一部介助	全介助	改善	維持	悪化	
コミュニケーション能力	支障なし	支障あり						
認知	支障なし	支障あり						
社会との関わり	支障なし	支障あり						
褥瘡・皮膚の問題	支障なし	支障あり						
行動・心理症状(BPSD)	支障なし	支障あり						
介護力(家族関係含む)	支障なし	支障あり						
居住環境	支障なし	支障あり						
					改善	維持	悪化	

【注意】
 維持/改善の可能性欄は、支援を受けた場合にどのように変化するかを記載します。
 ですから、現在欄が「自立」「支障なし」の場合は、維持/改善の可能性には○はつかないことになります。

利用者及び家族の生活に対する意向	
------------------	--

見通し ※5	生活全般の解決すべき課題(ニーズ)【案】 ※6
改善の可能性に着目します。 「自立した日常生活の阻害要因」の解決に向けて、他の専門職より得た意見を参考に、自立支援に資する事柄を記載します。 特に改善可能な状態に対する見通しを具体的に記載します。 ここで検討した見通しの内容がケアプランに反映されます。	見通し欄の内容を踏まえて、利用者の認識と意向を確認しながら、合意のできた範囲でニーズを確定します。(利用者の意向を尊重します。) ↓ 居宅サービス計画書第2表の「生活全般の解決すべき課題(ニーズ)」と一致します。

【注意】
 見通し欄には、援助内容を記載します。
 サービス種別(例:訪問介護、通所介護等)は、援助内容を提供する方法です。
 ですから、見通し欄にサービス種別は記載しません。

※1 本書式は総括表でありアセスメントツールではないため、必ず別に詳細な情報収集・分析を行うこと。なお「状況の事実」の各項目は課題分析標準項目に準拠しているが、必要に応じて追加して差し支えない。
 ※2 介護支援専門員が収集した客観的事実を記載する。選択肢に○印を記入。
 ※3 現在の状況が「自立」あるいは「支障なし」以外である場合に、そのような状況をもたらしている要因を、様式上部の「要因」欄から選択し、該当する番号(丸数字)を記入する(複数の番号を記入可)。
 ※4 今回の認定有効期間における状況の改善/維持/悪化の可能性について、介護支援専門員の判断として選択肢に○印を記入する。
 ※5 「要因」および「改善/維持の可能性」を踏まえ、要因を解決するための援助内容と、それが提供されることによって見込まれる事後の状況(目標)を記載する。
 ※6 本計画期間における優先順位を数字で記入。ただし、解決が必要だが本計画期間に取り上げることが困難な課題には「一」印を記入。